CDT 時計描画テスト

Rouleau法｜命令条件の日本語実施・採点資料 v1.0

本人が描き、評価者が観察・採点する実技課題です。
別途、白紙と鉛筆を用意してください。この資料を本人に見せながら実施しません。認知症の診断や生活上の安全性を、この得点だけで決めません。

1．用意・確認

原著の命令条件は白紙（8.5×11インチ＝215.9×279.4mm）と鉛筆を使用。円・数字・時計の見本は提示しません。A4に変更した場合は用紙変更を記録し、原著と完全同条件とは扱いません。

眼鏡・補聴器、使用言語、指示理解、視覚・上肢運動の状態、利き手と使用手を確認します。安定した座位と書きやすい机を整え、時計や本資料が手がかりにならない環境にします。

2．教示・観察

編集上の日本語訳：
「時計の絵を描いてください。数字をすべて入れ、針で11時10分を示してください。」

本人の描画過程を観察し、開始の様子、描く順序、修正、追加の教示を記録します。数字の場所や針の方向を教えたり、手を誘導した描画を通常条件の得点として扱ったりしません。家族による代筆は本人のCDTではありません。

原著本文には共通の制限時間・再教示回数・練習回数の詳細規定を確認できません。独自の秒数や回数を正式規則にせず、実際の所要時間・教示の追加・条件変更を残します。

採点基準｜0〜10点

各領域から1つ選ぶ：外円 0〜2 ＋ 数字 0〜4 ＋ 針 0〜4

外円｜0〜2点

点数	判断する描画
2	外円があり、大きな歪みはない。
1	外円が不完全、または歪みがある。
0	外円がない、または形が全く不適切。

数字｜0〜4点

点数	判断する描画
4	数字がすべて正しい順序にあり、配置の誤りはないか、ごくわずか。
3	数字はすべてあるが、配置に誤りがある。
2	数字の欠落・追加はあるが、残る数字の配置に大きな歪みはない。または反時計回りに並ぶ。 または数字はすべてあるが、配置が大きく乱れる。
1	数字の欠落・追加があり、かつ配置が大きく乱れる。
0	数字がない、または数字の表現が不良。

針｜0〜4点

点数	判断する描画
4	針の位置が正しく、長短の区別もある。
3	位置の誤りがわずか、または長短の区別がない。
2	針の位置を大きく誤る。11時10分前なども含む。
1	針が1本だけ、または2本の針の表現が不良。
0	針がない、または針の保続がある。

高いほど描画が良好。領域内の選択肢は足しません。針が正しくても、数字の欠落・配置の誤りは数字の領域で判定します。保続とは、止めるべき描画を繰り返すことです。

0点の描画所見と、麻痺・視覚障害・拒否・中止などで実施できない状態を区別します。原著に欠損補完の規定は確認できません。評価できない領域を0点で埋めたり、満点換算したりせず、理由を記録し総点を保留します（記録上の運用）。

CDT / COMMAND CONDITION / RECORD

実施・結果記録

Rouleau法・命令条件／描画は別紙を原画のまま保存

対象者ID：_____　評価日：_____年____月____日

実施者：_____　採点者：_____

年齢：_____　教育歴：_____年　使用言語：_____

利き手：_____　使用手：_____　開始・終了：_____

用紙寸法：_____　鉛筆以外の使用物品：_____

眼鏡・補聴器：_____　視覚・聴覚・上肢の条件：_____

同席者・関係：_____　通訳・回答補助の有無：_____

描画者は本人。同席者は代理描画しません。補助の内容は下欄へ記録します。

得点

外円	数字	針	総点
／2	／4	／4	／10

全3領域の採点が成立した場合のみ合計。評価不能を表す独自の数値コードは使用しません。

再教示・介助・条件変更／未実施・中止・判定不能の理由

描画の具体的所見・開始や修正の様子／原画の保存場所

生活場面で追加確認すること・支援方針（独自の記録欄）

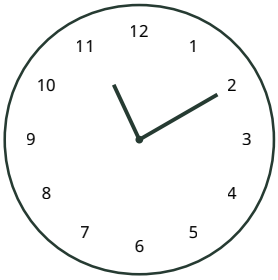
前回と比べるときは採点法・教示時刻・用紙・使用手・補助条件を確認。命令条件と模写条件を合計しません。再検査の得点差を、そのまま臨床的に意味のある変化とは判断しません。

説明図・資料の位置づけ

採点者用／本人に提示する模写モデルではありません

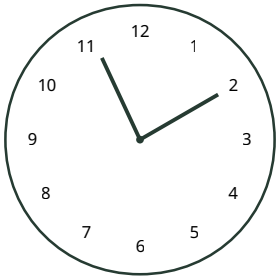
3．採点者向けの説明図

A 位置と長短が適切



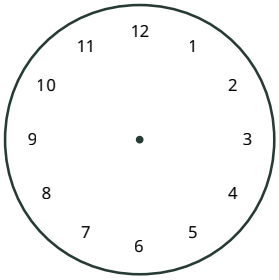
針：4点の説明例

B 長短が同じ



針：3点の説明例

C 針を描いていない



針：0点の説明例

独自の採点説明図。針だけの基準例であり、検査刺激・模写用モデルではありません。短針の微小な角度差について独自の許容角度を追加しません。

模写は別条件：原著では命令条件の後、用紙上部の直径3インチ（76.2mm）・11時10分の時計を同じ用紙下部へ模写し、別々に採点しています。本PDFは命令条件用です。原著の模写モデルの同一性を確認できる画像は収録していません。模写を行う場合は原著・採用プロトコルの見本を別途準備し、本図を代用しないでください。

出典・翻訳・利用条件

採点表：Kehl-Floberg KE, Marks TS, Edwards DF, Giles GM (2023), Appendix A（CC BY 4.0）を日本語化・再構成。数字2点の方向表記はRouleauら（1992）, Table 2のcounterclockwiseに照合し「反時計回り」とした。公式・検証済み日本語版ではない。記録欄・説明図は独自作成。

公開資料：doi.org/10.3389/fnagi.2023.1210585 ／ 原著：doi.org/10.1016/0278-2626(92)90112-Y
ライセンス：creativecommons.org/licenses/by/4.0/（出典・変更内容を明示）

Rouleau I, et al. Brain Cogn. 1992;18:70–87.
Kehl-Floberg KE, et al. Front Aging Neurosci. 2023;15:1210585.
© 2023 Kehl-Floberg, Marks, Edwards and Giles. CC BY 4.0.
日本語化・体裁変更・方向表記の原著照合：STROKE LAB編集資料（2026年11月）。

正式資料との関係

本資料は命令条件の実施・採点を支える編集上の日本語資料です。3領域の全配点を収録。描画用の白紙と鉛筆は別途用意します。原著の患者図版や模写モデルそのものは収録していません。

日本語での教示の同等性、本編集版の信頼性・妥当性は検証されていません。原著や採用する施設・研究の手順と併せて使用してください。